玉造教会ニュース　１１月号

シャローム

２０２２年１１月６日　　４７２号

発行：玉造教会　評議会
編集：玉造教会　広報委員会
〒５４０－０００４
大阪市中央区玉造２-２４-２２
TEL　０６-６９４１-２３３２
FAX　０６-６９４１-２６０５

新しくなるミサのことば

ヌノ神父

11 月 27 日（待降節第一主日）からミサの式次第が変わります。もちろん、「ミサ」が変わるのではなく、ミサの式次第のことばの表現が変わるのです。
どうして今になって変わるのですか？実は１９７８年に発行され、40 年以上に使用されてきた現行の日本語版ミサ典礼書は暫定的な認証を受けたのです。そのため、典礼書の改訂作業が進められてきたが、２０２１年５月、ミサの式次第と第一～第四奉献文等がバチカンから認証を受けました。これを受けて、今年の待降節第一主日から新しい式次第を使用することになりました。
親しんできたミサの日本語が変わり、再び覚えるのも大変なことですが、改めてミサの意義を考えるよい機会になることを希望します。

「またあなたとともに」

例えば、今までの「また司祭とともに」という応唱が**「またあなたとともに」**という表現に変更されます。司教や助祭に対して唱えるときには違和感があったからです。今度は、開祭の挨拶、福音朗読の前、奉納祈願の前、叙唱の前、平和のあいさつ、派遣の祝福も、
同じように「司祭」が「あなた」に変わります。「回心の祈り」のことばも少し変わります。現行版の「兄弟の皆さん」は、「**兄弟姉妹の皆さん**」に。

「主よ、いつくしみを。」

変更が一番多い箇所はミサの賛歌です。それは原則として口語で唱えることになりました。
例えば、今までの「主よ、憐れみたまえ」はこのようになります：

先唱：主よ、いつくしみを。　会衆：主よ、いつくしみをわたしたちに。
先唱：キリスト、いつくしみを。　会衆：キリスト、いつくしみをわたしたちに。
先唱：主よ、いつくしみを。　会衆：主よ、いつくしみをわたしたちに。

この場合、「主よ、あわれんでください」と訳すこともできるが日本語のニュアンスから考えると『あわれみ』を『いつくしみ』に変更されました。同じように、「栄光の賛歌」や「平和の賛歌」も変わります。
言葉の変更によって、心から「ごめんなさい」と「ありがとう」を祈り、私たちのために命をささげてくださった主の恵みを深める機会になります。

朗読者が「神のみことば」、一同が「神に感謝」

今まで、第一と第二朗読の後は会衆が沈黙を捧げてきたが、今度は朗読者が「神のみことば」と唱え、**一同**は「**神に感謝**」と答えてから、沈黙のうちに神のことばを味わうことになっています。

福音朗読後

福音朗読前は、司祭「主は皆さんとともに」、会衆「またあなたとともに」、司祭「○○○による福音」、会衆「主に栄光」となります。朗読後は、**司祭「主のみことば」、会衆「キリストに賛美」**となります。これによって福音はキリストのことばであることがより明確になります。

信仰宣言

信仰宣言は今までどおりニケア・コンスタンチノープル信条、あるいは使徒信条を歌うかまたは唱えるのですが、キ

リストの受肉の神秘について述べる部分で一同は**礼をする**ことが明記されました。具体的にニケア・コンスタンチノープル信条の場合は「聖霊によって、おとめマリアよりからだを受け、人となられました」というところです。
頭を下げて、神の愛を表す受肉の神秘を感謝します。

奉納祈願の前に

パンとぶどう酒が祭壇の上に供えられた後、司祭が「皆さん、このささげものを、全能の神である父が受け入れてくださるように祈りましょう」と招き、会衆が「神の栄光と賛美のため。。。」を唱えます。この対話句は今度はこの通りになります。

司祭：皆さん、ともにささげるこのいけにえを、全能の父である神が受け入れてくださるよう祈りましょう。

会衆：神の栄光と賛美のため、またわたしたちと全教会のために、あなたの手を通しておささげするいけにえを、神が受け入れてくださいますように。

叙唱前に

ミサの中心であり頂点である奉献文は司祭と会衆の対話から始まります。それは 2 組のから 3 組の対話句になります。

司祭：主は皆さんとともに。
会衆：またあなたとともに。
司祭：心をこめて、
会衆：神を仰ぎ、
司祭：賛美と感謝をささげましょう。
会衆：それはとうとい大切な務めです

言葉がほとんど変わらないが 3 組になった対話句は神の恵みへ感謝を込めて奉献文を拝聴するように招きます。

信仰の神秘の後に

奉献文の中で司祭が唱える「信仰の神秘」の後の答えの言葉がこのように変わります。

会衆：主よ、あなたの死を告げ知らせ、復活をほめたたえます。再び来られるときまで。

この応唱をとおしてミサにあずかる私たちは主の過ぎ越しの神秘に繋がり、これを告げ知らせ、救いの完成に向かう姿を表します。ミサの中心で唱えるので、言葉を理解し早く覚えたいところです。

奉献文の結びに

今までは奉献文の結びに、司祭はパンとぶどう酒を高く掲げて、「キリストによって、キリストとともに、キリストのうちに。。。」を唱え始め、「すべての誉れと栄光は世々に至るまで、アーメン」の部分は会衆が唱えあるいは歌っていました。
新しいミサの式次第の結びは司祭が唱え、**会衆は「アーメン」**とだけ答えます。
会衆の言葉が減りますが、「まことにその通り」と意味する「アーメン」の言葉にすべての思いを込める言葉です。

「限りなく」から「永遠に」へ

主の祈りの後に司祭が祈りを続けて、会衆が答えます
会衆：国と力と栄光は、永遠にあなたのもの。
今まで「限りなくあなたのもの。」でした。間違いないように注意しましょう。

拝領前の信仰告白

拝領前の応唱もこのように変わります。
司祭：世の罪を取り除く神の小羊。神の小羊の食卓に招かれた人は幸い。
会衆と司祭：

主よ、わたしはあなたをお迎えするにふさわしい者ではありません。
おことばをいただくだけで救われます。

このことばは、家に苦しんでいる自分の子どもをイエスに癒して下さるように頼んだ百人隊長の謙遜と信頼を表わしたものです。百人隊長のように、私たちは、イエス様に来ていただく資格などないことをよく分かります。謙遜と

信仰をもってイエス様を迎えます。ここも早く覚えたいところです。

以上は今回変更する主な箇所になります。最初は少しの戸惑いがあるかもしれませんが、同時に新鮮さもあります。新しいミサの式文の変更はミサの意義を深めるチャンスになればと願います。

New Order of Mass in Japanese

Fr. Nuno Lima

From November 27th (the first Sunday of Advent), the Order of the Mass in Japanese will change. Of course, the "Mass" itself has not changed, but only some of the words we use during Mass.

Why are these changes happening now? In fact, the current version of the Japanese Missal, published in 1978, had only a provisional approbation, which means approval, by the Vatican. However, it has been in use for over 40 years. The revision of the liturgical texts has been on order to receive final approbation for several years and this approbation by the Vatican was given in May 2021. Thus, from the first Sunday of Advent this year, November 27th, the new Missal will be in use throughout Japan.

Although we became very familiar with the actual ritual of the Mass in Japanese and, perhaps, we will need some time to learn the words again, this can be a good opportunity for each one of us to rethink the meaning and the significance of the Mass.